



活動報告

市古次郎

市政レポート

日本共産党
川崎市議会議員
(中原区選出)



市古次郎の公式
ブログQRコード

2026年7月
No 75

(発行・連絡先)

日本共産党
市議会議員団

川崎区宮本町1
川崎市役所内
☎044-200-3360

台風6号接近に伴う 市教委の対応に疑問の声

川崎市の風水害時の休校基準は、「朝6時時点で暴風警報や計画運休等が発令されている場合」です。

しかし今回は朝8時半頃に大雨警報(レベル4)が発令される中での開校となりました。保護者から「前日判断なら仕事を休めた」「本当に行かせていいのか」との声が上がりました。

また、早朝から稼働する給

食調理員ら教職員からも「市は働く職員の安全をもっと考慮してほしい」といった声も届きました。

県内では前日に休校を決めた自治体も複数あり、子どもや教職員の安全確保のため、前日判断など早期の基準見直しを求めました。

市教委は「保護者の意見を

6月市議会報告



多くの学校が避難所になっているその対応

等々力緑地の再編整備で

利用料金大幅値上げ

等々力緑地のスポーツ施設の利用料金上限額を引き上げる議案が提案、可決されました(共産党は反対)。これによりテニスコートは約1.7倍、サッカー場は約3.7倍の引き上げに。

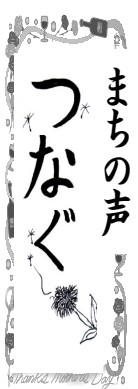
市は利用料金見直しの際、1.5倍以内とする経過措置を設けていましたが、今回は

目となる。

数年前、市古市議から市政報告会の案内を受けたとき、正直「休日に川崎市政を学ぶなんて退屈だ」と思い、興味は皆無だった。

友人と過ごすでもなく、映画や美術館に行くでもなく、市議から市政を聞く、字面だけで眠くなる。

しかし、洪々参加してみると、内容の濃さと面白さに驚き、目から鱗が落ちた。それ以来必ず参加し、今回で三回



市古市議の説明は情報量が多く構成も巧みで、語り口はまるでエンターテナーだ。

給食制度ひとつ取っても、法解釈の歴史、市民の声、他都市の事例が絡み合う様子がよくわかり、市政が一種のコンテンツに思えるほどだ。

「市政報告会」という堅い名称で敬遠されるのは惜しく、「劇団次郎」などに改題してはと提案しているが採用される気配はない。

それでも多くの人に足を運んでほしい。(R/A)

上下水道料金の値上げの方向性では、一般家庭平均(月21㎡)で月997円、年間約12000円の値上げに。物価高騰が直撃する市民に対し、負担増を強いるべきではないと値上げの再考を求めました。

市が水道料金値上げ検討 ——市費の活用を求める——

市は、安定的な経営基盤の構築等を理由に値上げの検討を進めると答弁。市民の安全を守る老朽化対策等と暮らしを守ることは両立すべきであり、市費の活用を求めました。

含め、学校現場と協議、意見交換して検討していく」と答弁しました。

釣池周辺の自然保護を

全会一致で採択された

「改訂ではなく刷新」という理由で利用者へ大幅な負担増となります。

全会一致で採択された「等々力緑地の釣り池周辺の自然環境の保全を求める」請願の対応について代表質問で質疑。川崎とどろぎパーク株式会社



池周辺の樹木が次々と伐採される

年度初めから未充足

市立小・中学校教員

2026年度の教員確保の状況が公表されました。

2026年5月1日時点の市立学校教員の配置状況

	欠員	産育休	休職者	合計
小学校	25.5人	9人	13人	47.5人
中学校	6.5人	4人	8人	18.5人
高校	0人	1人	1人	2人
特別支援学校	9.5人	2人	3人	14.5人
合計	41.5人	16人	25人	82.5人

短時間勤務の教員は「0.5人」換算

定数に対し先生が充足されていない、未充足は小学校47.5人、中学校18.5人、高等学校2人、特別支援学校14.5人に及び、合計で82.5人となりました。

市教委の積極的な正規教員の確保一定評価しつつ、「第3次かわさき教育プラン」で掲げている「2030年度までに未充足ゼロ」という目標は異常事態を長引かせていることに他ならないことを代表質問で指摘。市教委は「可能な限り早期の解消に努める」と答弁しました。

保育園の待機児童公表

待機児童ゼロって本当？

市は2026年4月の待機児童数「ゼロ」を発表しましたが、保護者からは「園が見つからない」との声が絶えません。このギャップは国のカウント方法にあります。

待機児童に該当しない「保留児童」が1081名に上り、その内訳は育休申請者429名や、通園圏内に空きがあっても特定の園を希望する396名などです。通勤等の理由で特定の園を望むのは当然ですが、現行基準では待機児童から除外されています。

2026年4月1日時点の保育所等の待機児童の状況

	川崎市	中原区
利用申請者数	37005人	7212人
利用児童数	35924人	6996人
保留児童数	1081人	216人
・市の保育施策で対応※	182人	21人
・企業指導型保育で対応	55人	7人
・育休関係の申請者数	429人	89人
・特定の保育所を希望	396人	99人
・求職活動を休止	19人	0人
待機児童数	0人	0人

*市の保育施設とは…川崎認定保育園、一時保育、幼稚園預かり保育、事業所内保育等です



エポックなかはらで停電発生 また高圧ケーブル

6月12日、エポック中原で停電が発生。原因はまたもや高圧ケーブルの絶縁不良でした。市の施設で15回目の高圧ケーブルが原因による停電となります。

ホールでは停電で空調が止まった中で扇風機等をフル稼働してのイベント開催でした。利用者への影響は大きいものとなりました。

学区外進学申請の

手続きの改善

家庭の事情で指定校以外、いわゆる学区外の小中学校へ通う際の申請手続きは区役所が窓口ですが、記入が難しく確認のため複数回通うことになった保護者から改善を求めた声が届きました。

渋川護岸整備 すみよし桜の植樹

渋川の護岸工事が始まっています。伐採された桜は住吉観光協会が寄贈、不足分は区が植樹。治水工事に合わせ行政、地域連携の住吉ざくらを守る取組が進められています。



市の緑の基本計画 『樹冠被覆率』の採用

川崎市緑の基本計画の改定が進められる中で、ニューヨークやロンドンなど、世界の都市が暑熱対策として進める木陰を作る取り組み「樹幹被覆率」の導入の検討が掲げられたことを市古市議は一般質問で評価。

市に状況を確認、要望すると、これまでは各区役所が独自に対応しておりバラバラだったことが判明。これを受けて市は統一した記入例を作成し、ホームページでも公開しました。手続きの負担軽減、窓口サービスの標準化が前進しました。



毎年恒例の市政報告会を開催しました。市議会の質疑を再現・解説し、議論の現状を知るコーナーでは「多摩川格差」を取り上げ、「実態がよく分かった」「分かりにくい議論が知れて良かった」など嬉しい感想をいただきました。

また、横浜市の古谷市議を招き、両市の住民サービスと比較する対談も実施しました。「この施策は横浜（川崎）が優れている！」という切り口で、中学校給食や公共交通、特別支援教育、不登校対策、犯罪発生率などテーマは多岐にわたりました。



それそれぞれの街の取り組みや特色を比較した対談は想定以上に盛り上がり、時間をオーバーするほどでした。

私自身もお隣の横浜市の取り組みから学ぶことが多く、大変勉強になりました。

会場との質疑応答では、教員現場の休憩、医療現場の物価高騰と資材不足の影響、子育て世代からの給食時間や子どもの権利条例への要望などが寄せられ、あつという間の2時間となりました。

「自分たちの暮らす街は自分で決める」その為にも、もっと市政を身近に、わかりやすい情報発信に努め1人でも多くの方に市政に参加していただき、その声を届け、川崎がもっと住みやすい町となるよう一緒に取り組んで参ります。

市政や暮らしに関わる相談ごとはどうぞ

◎くらしの相談センター 市古次郎所長
 ・受付 月～土 午後2時～4時(休・祝日は休み)
 ・弁護士による法律相談は毎月第3木曜日19時・事前予約
 ・場所 市古次郎 事務所上平間1955小島ビル一階・
 (☎)511-7592 相談は全て無料です。